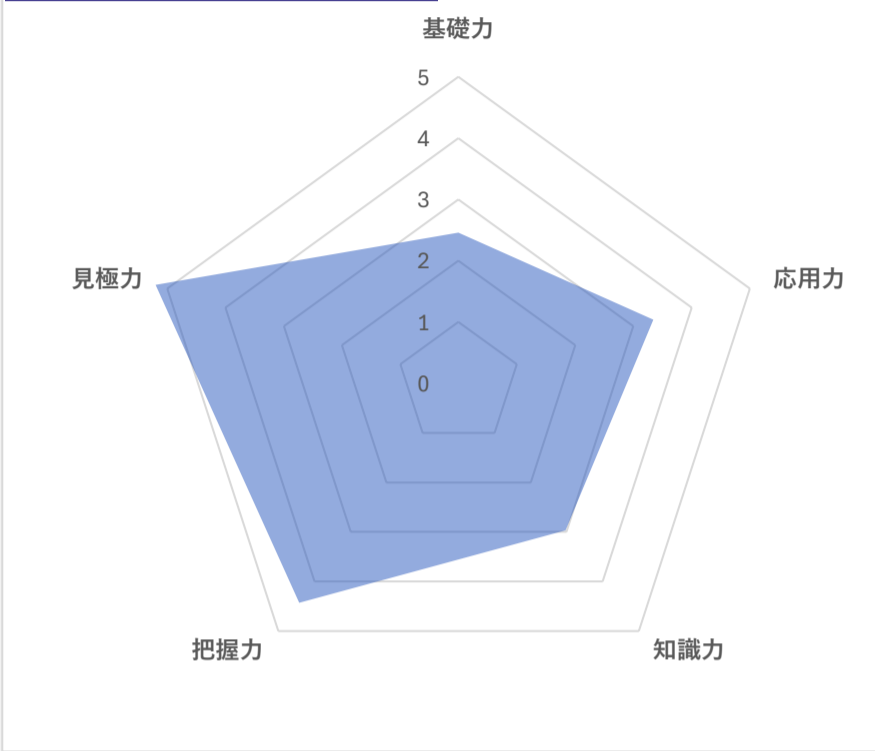


総合分析

試験区分	一般 (2日目)
------	----------

制限時間	70分 (物理単科70分)	大問数	全 4 問
------	---------------	-----	-------

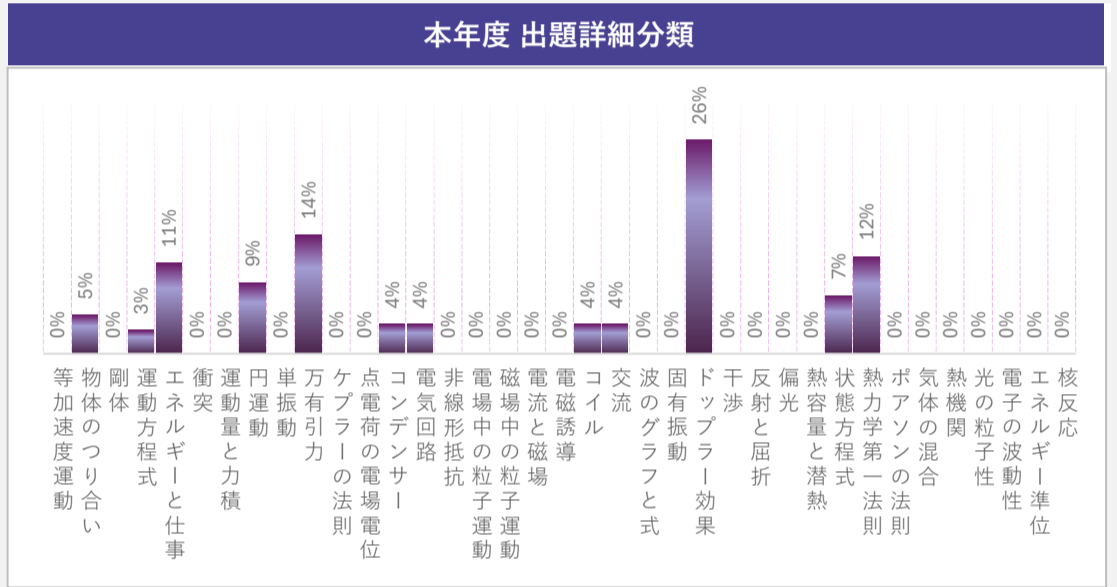
合格に要する能力 (5段階)



出題分野	
力学	41%
電磁気学	14%
波動	26%
熱力学	19%
原子物理	0%

本年度出題テーマ一覧	
第 1 問	万有引力による運動
第 2 問	電気回路と未知の素子決定
第 3 問	ドップラー効果
第 4 問	断熱自由膨張

本年度 解答形式	
選択肢	51%
答えのみ記述	49%



特殊問題の有無	近似計算なし	グラフあり
正誤問題なし	理由記述なし	数値計算なし

特記事項 第1日目と出題の傾向はあまり変わらないが、非常に解きにくい。

総合評価

難度	3.5	最難を 5 とする問題自体の難度	標準	一次合格に必要な正答率 (予想)	59%
分量	95分	完答に要する時間 (制限時間は70分)	多い	標準	

入試の特徴と対策

- ▶ 設問ごとにテーマが一貫しており、目標に向かう流れがある。速やかなテーマの把握が鍵となる。
- ▶ 概ね法則の運用に関する応用的な出題である。物理計算への慣れが必要となる。
- ▶ 同時に複数の事柄への理解を要する出題が多い。独力で解法を組み立てる力を要する。

入試から見る大学が求める学生像

テーマとしては珍しくないが、個性的な表現力と個性的な問い方によって極めて解きにくい。かなり問題を読み込まないと解答に要する情報を得ることができない。解法の誘導もほとんどない。後半の大問に解答選択肢がついているのが唯一の救いである。総じて特殊な問題にはチャレンジせず、確実に得点できる問題で確実に得点するような、堅実な学生が望まれているのだろう。